

JAIH NEWS LETTER

日本国際保健医療学会ニュースレター

1
2023
Vol. 4 Jan.

国際保健の働き方 UpToDate

[インタビュー企画]

シロアムの園 代表

公文 和子

教えて！『世界の公衆衛生大学院』

[座談会企画]

青木 智乃紳

安富 元彦

九十九 悠太

南谷 健太

最も弱い立場に置かれている人のために

坂元 晴香

東京女子医科大学グローバルヘルス部門 准教授



坂元 晴香 東京女子医科大学 グローバルヘルス部門 准教授

子供の頃、ケビン・カーターの「ハゲワシと少女」の写真を目にする機会がありました。同じ時代に生きていながら、安全な日本に暮らす自分と、飢餓で命を落とそうとしている少女。この絶望的なまでの格差を目にして以降、最も弱い立場にある人たちのために何かできればという思いで国際保健に関わってきました。

大学を卒業後は、厚生労働省やアカデミア勤務など2～3年ごとに仕事を変えてきました。綿密に計画を立ててキャリアを重ねてきたというよりは、その時々のご縁で色々な経験をしてきたように思います。変化の激しい時代、未来の予測も難しいことを思うと、自分の中の核となる部分がブレなければ、柔軟にキャリアを重ねていくのも悪くないかもしれません。

ここ数年は世界規模の課題が多発していますが、こうした危機の際に一番影響を受けるのは社会で最も弱い立場に置かれた人たちです。21世紀になってもなお、人の命が簡単に脅かされる社会にあって、少しでも弱い立場に置かれた人たちの役に立てるよう、皆さんと一緒に歩みを進められればと願っています。

P02 Short Essay

最も弱い立場に置かれている人のために

坂元 晴香

東京女子医科大学 グローバルヘルス部門 准教授

P04 座談会企画

教えて！『世界の公衆衛生大学院』

青木 智乃紳

ハーバード大学公衆衛生
大学院 修士課程（医療政策専攻）

安富 元彦

ハーバード大学公衆衛生
大学院 修士課程 (Master of Science in Epidemiology)

九十九 悠太

ハーバード大学公衆衛生
大学院 修士課程 (Quantitative Methods)

南谷 健太

ハーバード大学公衆衛生
大学院 修士課程（医療政策専攻）

P10 インタビュー企画

国際保健の働き方 UpToDate

公文 和子

シロアムの園

P12 Scenery of My journey

優雅に歩くサイの向こうに見つけた課題

P14 Academic Conference Report

第 37 回学術大会報告

P17 学会からのお知らせ

第 41 回西日本地方会のお知らせ

Tropical Medicine and Health

英文誌認定のお知らせ

P18 国際保健謎解き

今月のパズル

P19 Voice

編集部からのお知らせ

編集後記

教えて！『世界の』

ハーバード大学公衆衛生大学院に進学されている4人の先生方に、大学院を選んだきっかけや将来についてお話を伺いました！！

自己紹介をお願いします！

青木：青木智乃紳と申します。日本では医系技官として厚生労働省に所属しております。現在は人事院の行政官長期在外派遣研究員として、ハーバード大学公衆衛生大学院にて医療政策分野を学んでおり、1年間で Master of Public Health (MPH) を取得予定です。国からは留学期間を2年いただいております、2年目は Massachusetts Institute of Technology (MIT) で学ぶ予定です。よろしくお願いいたします。

安富：安富元彦と申します。私は2019年に筑波大学の医学類を卒業して初期研修を終えた後、2021年夏からボストンにきています。ハーバード大学の疫学修士課程：Master of Science (MSc) の所属で、研究重視のプログラムになっています。

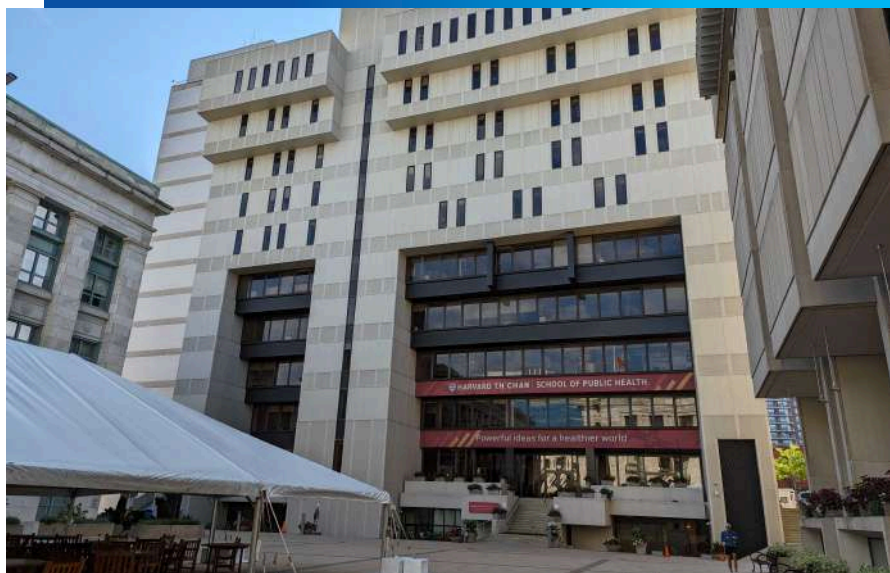
九十九：九十九悠太と申します。青木さんと同じく厚生労働省の医系技官をしており、2022年の夏よりハーバード大学公衆衛生大学院の Quantitative Methods という修士課程に所属しています。

南谷：皆さん初めまして。南谷健太と申します。私のバックグラウンドは少し変わってまして、学部で経済学を学んだ後、法科大学院を出ています。現在は弁護士として日本国内の法律事務所に所属しています。ハーバードの公衆衛生大学院では、青木先生と同じく、医療政策に関する研究を行う1年間の課程に所属しています。公衆衛生大学院卒業後は、アメリカのロースクール（法科大学院）に進学する予定です。

公衆衛生大学院に興味を持った理由を教えてください！

青木：私は工学部卒業後、社会人経験を経ての医学部編入学であり、社会的なことに関心がある中で医学部に入学しました。入学後も、同級生が臨床医学に強く関心を持つのに対して、私は臨床のみならず、それを取り巻く社会システムにも関心があるということを改めて感じました。そこで、制度面で医療に貢献したり、人々の健康を社会的な角度から支えたりする仕事をしたいと考えるようになり、公衆衛生に興味を持ち、医系技官として厚生労働省に入省しました。留学に際して、まずは公衆衛生の専門家である医系技官としての専門性を高めたいと考え、公衆衛生大学院を選びました。

安富：私が最初に公衆衛生に興味を持ったのは、ちょうど医学部2、3年生のころでした。最初はワクチンの効果などに興味を持っており、公衆衛生という領域も当時あまりよく知りませんでした。大学の公衆衛生の研究室に顔を出すようになり、ミーティングに少し参加させていただくようになったのが最初のきっかけかと思います。私は集団として患者さんを見ることに興味があったので、学生の頃は、どうにか臨床医学と社会医学への興味を両立できないのかと悩んでいました。卒業後に初期研修を行い、専門医取得に要する年数と、疫学の PhD 取得に要



▲ハーバード大学公衆衛生大学院校舎：HSPHの校舎であるKresgeビルディング

公衆衛生大学院』

する年数を秤にかけ、疫学研究により注力したいと思い、初期研修中にアメリカの公衆衛生大学院を中心に出了したという流れです。

九十九：大学卒業後は飯塚病院、倉敷中央病院で初期研修、外科後期研修を行いました。当時は目の前の患者さんの治療に全力を尽くすことが全てだと考えていました。しかし、母校の岡山大学で食道癌手術のトレーニングを行うなかで、患者さんの背景にある、大量飲酒や喫煙などの生活習慣上の問題に日々向き合うこととなり、どうすればもう少し前の段階でアプローチし、手術が必要な患者を減らせるかと考えるようになりました。そのタイミングで、巡り合わせて厚生労働省の医系技官の存在を知り、行政の道に入りました。

去年まで、厚生労働省で新型コロナワクチンの企画を担当をしていたのですが、1つの疫学論文が各国のワクチン施策を動かすダイナミックな状況を目にしました。パンデミックにおいてワクチン施策は公衆衛生だけでなく、社会経済にも大きく影響しました。特にハーバード大学から著名な疫学論文が次々と出てきて、世界に影響を与えていることを肌で感じました。このような環境に自分も身を置き、疫学研究の立案スキルと、大量に出てくる論文を迅速に解釈して政策に活かすようなスキルを身につけるためにハーバード大学で学びたいと出願に至りました。



▲ハーバードでの授業風景

南谷：経済学部やロースクールには、公衆衛生に関する授業がなかったこともあり、公衆衛生に興味を持ち出したのは数年前のことです。私の所属事務所では、弁護士の多くが、実務経験5～8年あたりのタイミングで海外留学をします。留学先はほぼ全員がロースクールです。私も、ロースクールでヘルスケア法や労働法を学ぶ選択肢があったのですが、プラスアルファで何か面白いことができないかとも考えていました。そんな矢先、たまたま公衆衛生を学んでいる方々と交流する機会があり、その方々の所属大学にはロースクール卒の学位（JD：Juris Doctor）を持っている教員が複数名いるという話を聞きました。また、Public Health Lawといった法律科目も開講されていたり、いくつかの大学では、JDとMPHの2つの学位を同時に取得するコースが設けられていることも知りました。こうした経験から、法律と公衆衛生とが親和性のある分野であると感じるようになりました。

他方で、私の周りには公衆衛生に関して具体的なイメージを持っている人はほとんどいなかったことから、公衆衛生は、日本の法律家が見落としている分野なのではないかと思いました。そのため、公衆衛生を学び、日本に持ち帰ってもっと多くの人に公衆衛生の概念を広めつつ、自身の専門分野への知見を深めることは非常に大きな意義があると感じ、公衆衛生大学院への出願に至りました。

数ある大学院の中からなぜハーバード大学を選ばれたのか教えてください！

青木：政府からの派遣の場合、まず留学する国を考えます。その過程でトップクラスの大学が集積し、多くの分野で先端を走るアメリカで学びたいと考えました。医療制度の観点では、課題が多い国ではありますが、世界で最も存在感のある国の制度を学ぶことは意義があるのではないかと考えました。

教えて！ 『世界の公衆衛生大学院』

その中で、ハーバード大学を選んだ理由としては、知名度や立地などを総合的に考えた上での決定ではありますが、自分の中での決め手は3点あります。1点目は1年でMPHが取れること、2点目は翌年に進学予定のMITとの複合的な学びが可能なボストンという地域であること、3点目は治安が落ち着いた街で学べるということです。

なお、2点目について補足すると、ハーバード大学がある東海岸のボストンは、医療という観点で非常に有力な病院群があり、ヘルスケア産業も盛んな地域です。一般的に産業構成を考えると、西海岸はシリコンバレーなどIT分野で強みを有しているのに対し、東海岸は鉄鋼などの重厚長大産業も含め産業的な多様性があるという特徴があります。私は医療や種々の産業に興味があるので、ボストンに魅力を感じました。

安富：基本的にどの大学に合格するかの見通しはなかなか立たないので、私は興味ある分野の教員がいる大学を

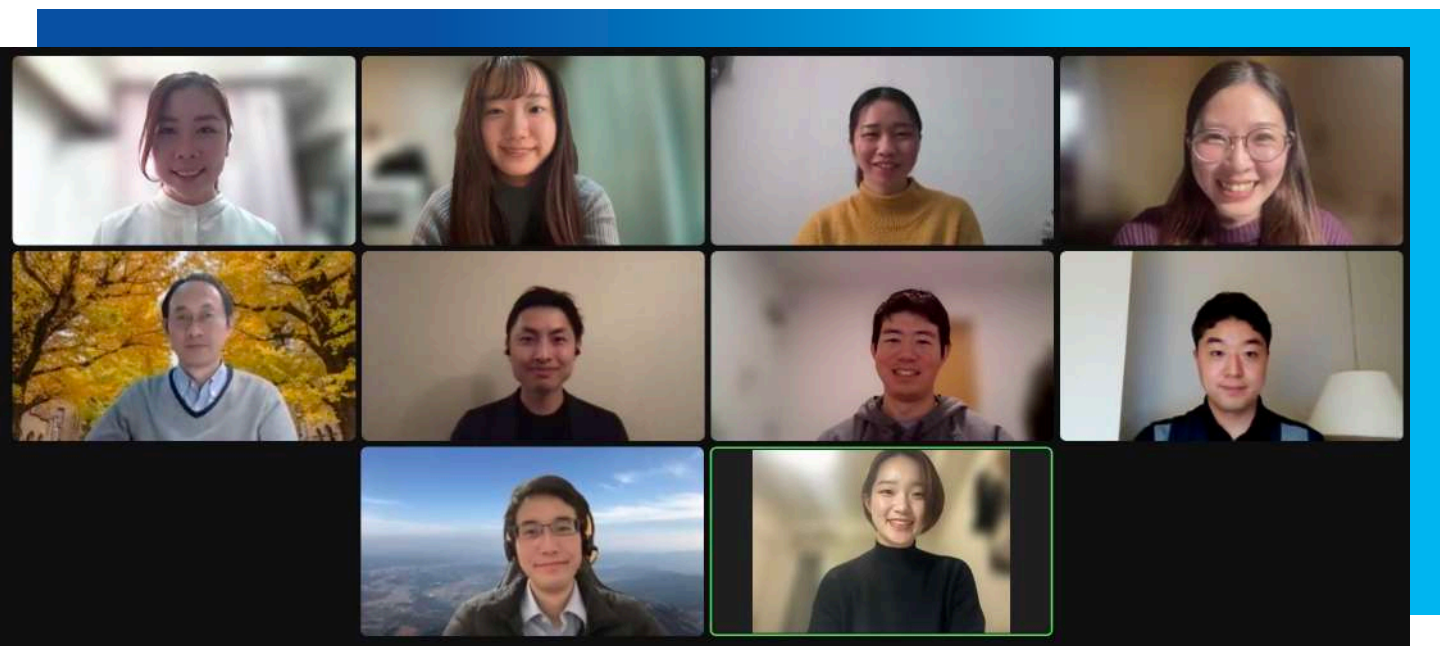
ピックアップし、応募しました。合格した中からハーバードを選んだ理由としては、私は薬剤疫学が専門ですが、その分野の教員が最も多いのがハーバード大学だったことが1番の決め手でした。また、東海岸はアカデミックに競争率が高く、優秀な学生、研究者、教員が集まっています。特にボストン周辺はそのような方々が集まっていると聞いたので、行ってみたいという思いがありました。

最後までハーバード大学と迷ったのはカルフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)です。私はアメリカで修士終了後にPhDまで取得したいと考えていたので、どこの大学院に行くとその後PhDに進学しやすいかという点も考慮しました。UCLAは修士コースが2年間なのですが、その途中でPhDに移行できる特殊な進路があります。そういった進路について卒業生の方から聞いていたため、UCLAに行けば途中でPhDに進学しやすい点は私にとって魅力的でした。ハーバードに関しては、内部生がそのままPhDに移行できるような進路はないため、その

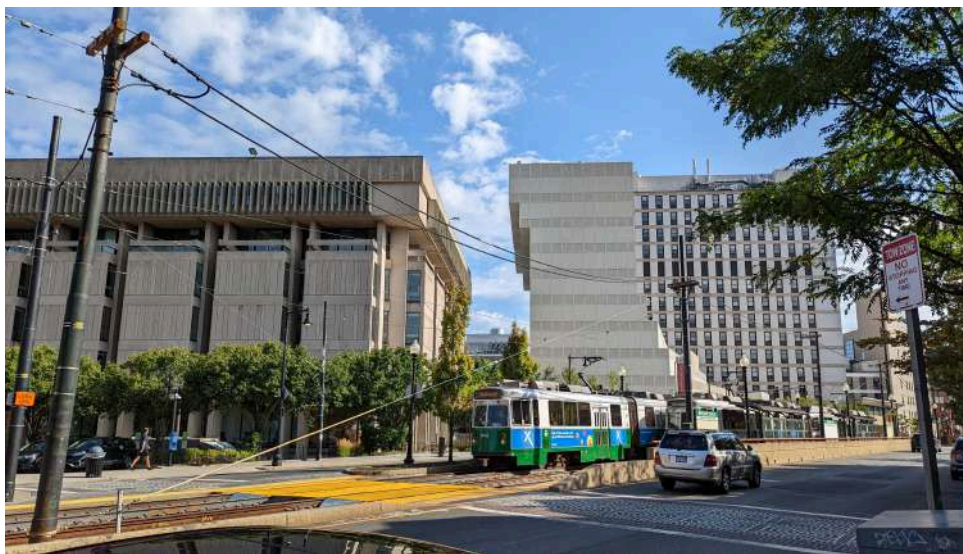
点で迷っていました。最終的には、治安や文化、学費など各要素を点数化し、ハーバードに決めました。

九十九：大学院の選択は留学において皆さんが頭を悩ますところかと思いますが、実際は多忙な日常業務をしながら情報収集をするので、時間的制約もあります。私の場合は、先ほど述べたようにハーバード大学から出てくる疫学論文が世界に大きなインパクトを与えていることを肌で感じ、実際にそこで学びたいという思いを持った事が主な理由です。また、家族も一緒にボストンへ来ていますので、子供の教育環境がどうか、治安がどうかなどを考慮しました。

南谷：法律家として公衆衛生を学ぶという観点から、ロースクールと公衆衛生大学院との交流が活発な大学院であることが望ましいと考えていたため、出願先の大学院を選ぶ際は、「ロースクールとしてのランクも高く、公衆衛生としてのランクも高い大学はどこか」という基準を持つようにしていました。



▲座談会の様子



▲キャンパス遠景：医学部図書館（左）と HPSH キャンパス（右）

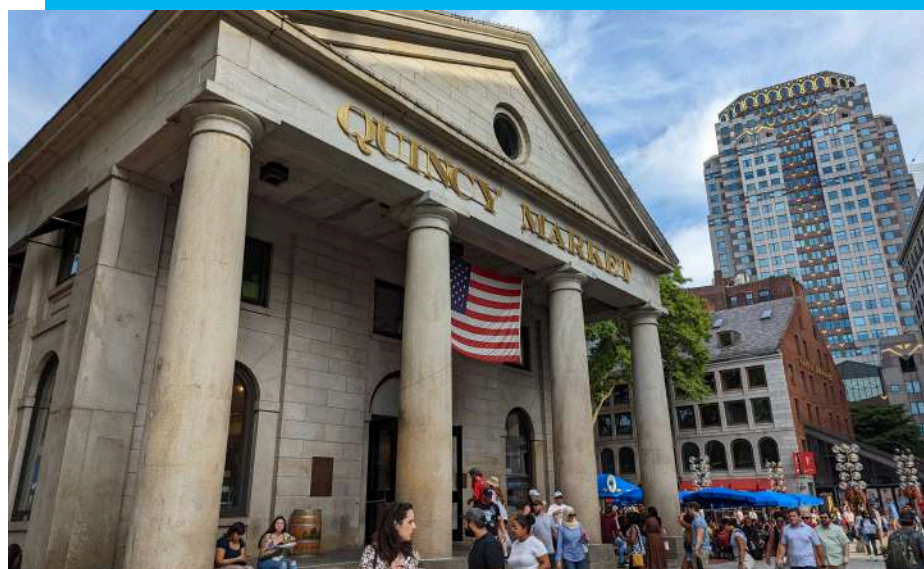
その中でハーバードを選択した理由の1つは、日本での知名度です。一見浅い理由のように思われるかもしれませんが、個人的には重要な要素だと考えています。日本の法律家において、公衆衛生（大学院）の知名度は低く、自分が公衆衛生のことを幅広い層に伝えて行くとき、日本人にとって馴染みのある大学院を出ていることによって、説明に説得力が出ると考えられるためです。

もう1つ大きな理由として、ハーバードには、他の大学院の授業も受けられる制度（Cross Registration 制度）があります。非医療関係者の立場から公衆衛生を学ぶにあたり、様々な分野の授業を取りながら、学際性のある公衆衛生へのクリアなイメージを持ちたいという思いがありました。ハーバードでは、専攻にもよりますが、必要単位の半分近くを他の大学院の授業に充てることが可能です。例えば、ビジネススクール、行政大学院（ケネディスクール）に加えて、MIT や、国際関係論で著名なタフツ大学の授業も取れます。

なお、青木さんもコメントしている通り、ボストンではヘルスケア産業が非常に盛んであることも理由の1つです。ヘルスケアビジネスに対する法的なアドバイスを提供している身としては、そのような環境でヘルスケアビジネスに関する解像度を高めたり、最新のトレンドをキャッチしたり、ネットワークを構築できたりすることは、非常に魅力的です。

将来どのような分野でどのような働き方をすることを考えているか教えてください！

青木：私は国費で留学させていただいているため、医療政策の分野において国に還元していきたいという思いがまずあります。医学部に入学前の自分の経歴も踏まえ、様々な経営主体のステークホルダー、またテクノロジーの進歩を踏まえた取り組みができればと考えております。具体的には、医療の質が持続可能な形で向上する仕組みや、新型コロナウイルス感染症のような公衆衛生危機の際に適切なイノベーションを起こすための制度構築ができる人材になりたいと考えております。現在そのような目標も踏まえて Deloitte Consulting LLP 及び世界銀行で実習を行っております。それらの活動を通して、例えば先端的な技術をどのような形で医療機関や医療制度に調和させてイノベーションを生み出していくか等、具体的な社会実装の形の検討も、学問的な研鑽と共にしております。



▲ボストン（ダウンタウン）：ボストンの観光地の1つであるクインシーマーケット

教えて！ 『世界の公衆衛生大学院』

安富：私は元々研究がしくてアメリカにきたので、卒業した後もアカデミアで研究を続けたいと思っています。私が専門としている薬剤疫学は、製薬企業も関心の強い領域で、第3相臨床試験まで終わって承認販売された薬剤の安全性や、さらに追加の効果を検証する時に関係する分野です。近年のアメリカでは、製薬企業に専門家が転職する傾向が強いように感じますが、日本はアカデミアでも製薬企業でも、薬剤疫学の専門家が少ないのが現状です。ゆくゆくは日本に帰って、薬剤疫学の分野で色々な研究者の方と仕事ができたらと思っています。

九十九：役所で医師の肩書きとして求められるのは、科学的なエビデンスがどうなっているのか、そしてそれをどう政策に落とし込むのかということですが、しかし、実際は他にも様々な業務があり、そこに割ける時間は多くはありません。最新のエビデンスをいかに迅速に評価し、政策に落とし込めるかが肝であり、現在そのためのトレーニングを行っています。

帰国後は、元々の目標であるがん対策に取り組むとともに、日本が課題とするビッグデータ研究のインフラの整備に貢献したいと考えています。このような事業は、研究者や企業の方々とディスカッションを行いながら進めていくのですが、私達医系技官が、そのバックグラウンドを深く理解しなければ良い制度に繋がらないため、現在の恵まれた環境でしっかりと学びたいと考えています。

南谷：私は大きく3つほど目標があります。

まずは、引き続き弁護士としての専門性を高めていくことです。医療政策分野を中心に得られた知見や英語力を活かし、労働法、ヘルスケア分野での専門性をさらに高めていきたいです。

2つ目は、弁護士として医療政策や労働安全衛生政策に関与することです。実は官庁に在籍する弁護士は多く、金融庁で金融政策に関与したり、個人情報委員会で個人情報関連政策に関与したりしていますが、医療政策や労働安全衛生政策でも同じことをやっていきたいと考えています。厚労省に在籍している弁護士はまだ少ないと感じており、ニーズがあれば是非とも仕事をしてみたいと考えています。

そして3つ目は、公衆衛生、あるいはパブリックヘルスの概念を、法曹界を含めて国民に広く普及させることです。弁護士やロースクールの学生を対象に、公衆衛生というものはどういうものなのか、また公衆衛生と法律がど

う関わっているのかを知ってもらいたいと考えています。そのような活動を通じ、公衆衛生に対する他の学問分野からの敷居を低くし、多くの人が関心を持ってもらうような世の中にしていきたいと思っています。

ありがとうございました



▲学生寮でのハロウィンイベント「パンプキンカービング」



青木智乃紳 先生

ハーバード大学公衆衛生
大学院 修士課程
(医療政策専攻)

京都大学工学部卒業後、民間企業での勤務を経て、弘前大学医学部を卒業。初期研修を修了し、厚生労働省に入省。厚生労働省においては、最初期からの COVID-19 対応や、2022 年度診療報酬改定を担当した。現在は、ハーバード大学公衆衛生大学院に在籍し、医学・工学・経営の観点を踏まえ、様々な発展状況における医療政策について知見を深めている。



安富元彦 先生

ハーバード大学公衆衛生
大学院 修士課程
(Master of Science in
Epidemiology)

筑波大学在学時から医療レセプトデータを用いた研究に従事。筑波大学附属病院にて初期研修を修了し、現在ハーバード大学公衆衛生大学院疫学修士課程在籍中。周産期・高齢者医療で頻繁に処方される医薬品の安全性・有効性の検討など薬剤疫学研究を行なっている。



九十九悠太 先生

ハーバード大学公衆衛生
大学院 修士課程
(Quantitative Methods)

岡山大学医学部卒業後、消化器外科医として勤務する中で癌対策の上流の課題にアプローチする必要性を感じ、厚生労働省に入省。下関保健所長としてパンデミック対策、国の新型コロナウイルスワクチンの企画担当等を経て、2022 年夏よりハーバード大学公衆衛生大学院修士課程在籍中。



南谷健太 先生

ハーバード大学公衆衛生
大学院 修士課程
(医療政策専攻)

東京大学経済学部経済学科卒業、慶應義塾大学法科大学院修了。弁護士。森・濱田松本法律事務所シニア・アソシエイト。労働法、ヘルスケア法、訴訟等の幅広い企業法務分野を担当。公衆衛生と法の交錯する分野への知見を深めるべく、2022 年夏より、ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程に在籍中。



ケニアで障害児の療育施設「シロアムの園」を設立・運営されている公文和子先生にお話を伺いました。現在取り組んでおられるお仕事の内容や先生が感じられたやりがいやご苦労、さらに現地でのご生活についても伺い、非常に刺激を受けることができました。

公文先生の キャリア

1994/3 北海道大学医学部 卒業
 1994/4-2000/3 北海道大学小児科入局, 北海道大学小児科医局関連病院勤務
 2000/3 北海道大学小児科博士取得
 2001/7 リバプール熱帯医学校 熱帯小児医学修士取得
 2001/9-12 Merline International シエラレオネ 小児科医
 2002/5-11 Friends without boarder カンボジア 小児科医
 2002/11- 2015/03 ケニアにて JICA 専門家、Merlin International 医療コーディネーター、JICA 保健企画調査員、Child Doctor Japan 共同代表など
 2015/1- 現在 ケニアにてシロアムの園代表

Mon	午前：スタッフ礼拝・打ち合わせ、療育、診療、事務仕事、来客対応 午後：マネジメントミーティング、事務仕事
Tue	午前：スタッフ礼拝・打ち合わせ、療育、診療、事務仕事、来客対応 午後：家庭訪問、事務仕事、会議など
Wed	午前：スタッフ礼拝・打ち合わせ、療育、診療、事務仕事、来客対応 午後：家庭訪問、事務仕事、会議など
Thu	午前：スタッフ礼拝・打ち合わせ、グループ療育、診療 午後：事務仕事、会議など
Fri	午前：スタッフ礼拝・打ち合わせ、療育、診療、事務仕事、来客対応 午後：家庭訪問、事務仕事、会議など
Sat	午前：娘の部活や試合に付き合う、往診、団体の銀行業務 午後：娘の試合、たまった業務の消化、一週間分の買い物、礼拝のためのピアノ練習
Sun	午前：教会礼拝 午後：教会関係の集会、土曜日にできなかったら買い物、たまった仕事の消化

事務仕事は広報、経理、人事、調達など多岐にわたります。

めちゃめちゃ朝型で、朝は遅くとも4時には起床して仕事、夜は9時半には就寝します。おかげで日本との時差が合わせやすいです。

公文先生のある1週間

About Works

Q どのようなお仕事をされているのか教えてください

A ケニアの障がい児事業「シロアムの園」の団体代表として、また小児科医として、スタッフ育成、診療、事務仕事、来客対応、広報など、基本的になんでも屋です。最近は執筆や講演準備、オンライン講演会などの仕事量もかなり多いです。勉強や研究もしたいですが、時間が足りない毎日です。

Q そのお仕事を選んだきっかけを教えてください

A ケニアで HIV、結核、母子保健、保健システム強化など様々な仕事を約 10 年間行っていく中で、脳性麻痺や神経発達症などの障がいのある子どもたちと出会い、恋に落ちました。彼らの生活は、医療・教育・社会的など様々な側面で非常に苦勞が多い環境であり、この子たちの人権が守られ、社会で一人の人間として幸せに生きていくためにするべきことがたくさんあると思い、団体を創設しました。

Q お仕事のやりがいや楽しさ、大変な事を教えてください

A 社会の制度やインフラが整わない環境でこのような仕事を継続していくことは、無謀に思えることもあります。しかし、シロアムの園に通ってくる子どもたちが様々な形で自分を表現できるようになったり笑顔になったり、親御さんたちが力づけられたり、スタッフが成長したり、社会がほんのちょっとでも変化したりなど、様々な「結果」を見ることができる素晴らしい仕事です。



About Life

Q 実際に現地に住んでみた様子について教えてください

A 現在首都ナイロビの郊外、少し田舎に住んでいますが、それでも治安がよいとはいえず、ふらふらと出歩くことができない苦勞があります。また、物事の進みが遅く、例えば変圧器が爆発して停電になったり、インターネットのケーブルが切られて使えなくなったりしてもなかなか修理がされないのはフラストレーションです。一方自然が豊かで人が優しく明るく、楽しいことがたくさんあります。

Q 休日は何をしてるか教えてください

A 仕事のない日は、もっぱら子育てや作り置き料理・お菓子作りなどを行っています。読書や音楽は好きですが、結局仕事が終わっていないと楽しめず、あまり文化的な生活はできていません。日本のドラマの DVD などを見て息抜きします。

Q 働き方や職場の雰囲気について教えてください

A 時間厳守（特に始業時間）の文化を作るのにはかなり苦勞しましたが、最近は時間通りに始業することによって、仕事効率がよくなることをスタッフが学んでくれています。もともと人と人との関りを大切にする文化がありますので、スタッフがスタッフ同士や子どもたち・そのご家族との会話や一緒にいる時間を大切にしています。ただ、言葉がストレートではなく包み隠すことが多いので、配慮が必要になってきます。



国際保健を目指す人へアドバイス

海外に出る時、出てから、自分に一体何ができるのかずっと悩んできました。

自分の強みと弱みをもっと知るようになり、知識や技術を得ることができ、その中で出会いがあってそれを大切に、様々な経験していくことによって、現場の真のニーズを知ることができ、また自分ができることがわかったように思います。大好きな人たちのために、大好きな人たちと共に歩むことほど幸せなことはないと思っています。

皆さんにもそのような出会いが与えられるよう、応援しています。



公文 和子 先生
シロアムの園代表



▲ナイロビ公園でお散歩中の優雅に歩くサイ

Title

優雅に歩くサイの向こうに見つけた課題

Author

熊本大学 医学部医学科 6 年
城戸 初音



学生時代に一度は足を踏み入れたい
アフリカ大陸。現地の医療機関の様子
やそこで行われる巡回診療、障害児の
ためのリハビリ施設やスラム街、そし
てベンチャー企業など、見たかったと
ころ全て見学させていただき、最終日
にナイロビ国立公園へ訪れた。

そこには、大好きな動物たちが動物
園では見ることができないほどのびの
びと暮らしており、自然の雄大さにた
だただ感動した。そして、誰かの餌食

となってしまったインパラや戦いに敗
れたライオンにも遭遇し、自然の厳し
さも痛感した。

写真はのんびりお散歩中のサイ。サ
イ自体はとてもかわいいのだが、その
後ろには外国資本で作られた線路が見
える。既に多くの建物、道路、線路が
ある日本ではなかなか感じることで
きないが、豊かな自然の風景が少しず
つ人間の都合によって浸食されている

ことへの不条理を痛感した。この線路をつ
くることが本当に現地のためになっている
のか、真に現地の人と協働するにはどうす
るべきか、今回旅の中で考えさせられる課
題であった。なかなか答えは出ないのかも
しれない。大学を卒業して研修が始まって
もこの気持ちをどこかに留め、機会を見つ
けて考えたいと感じている。

第 37 回学術大会報告

The 37th Congress of Japan Association for International Health

Yanagisawa Satoko
大会長 柳澤 理子
愛知県立大学

2022 年 11 月 19 日から 20 日にかけて行われた第 37 回日本国際保健医療学会学術大会の報告を大会長の柳澤理子先生にいただきました。本大会では「"ひとり"はどこにいるか - 草の根と意思決定者をつなぐ -」をテーマに様々なディスカッションが 2 日間で交わされました。(日本国際保健医療学会ニュースレター編集部)

2022 年 11 月 19 日(土)～20 日(日)、第 37 回日本国際保健医療学会学術大会を愛知県立大学で開催いたしました。第 35 回、第 36 回学術大会が、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催となりましたので、本年はなんとか対面開催を実現したいと望んでおりました。しかし、感染拡大時期に重なる可能性もあったため、会場とオンライン、オンデマンドを併用したハイブリッド形式で開催いたしました。開催日には第 8 波が立ち上がり始めていましたが、幸いにもまだ大きな流行には至らず、無事開催できましたことにほっといたしております。

学会テーマは、「"ひとり"はどこにいるかー草の根と意思決定者をつなぐー」と設定しました。Leave No One Behind は持続可能な開発目標 (SDGs) の理念の一つとして、繰り返し語られてきました。しかし、私たちには本当に取り残されている "ひとり" が見えているか、そのような "ひとり" に届こうとして努力している人々が草の根で見出したものを、意思決定者につなぎ実効性のある事業や政策に結びつけることができているか。そのような視点からディスカッションしたいと本テーマを設定し、また、大会長講演でも述べさせていただきました。

基調講演には、グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) の CEO、國井修氏をお招きし、紛争や災害の現場で被災者と直接向き合いながら、UNICEF や Global Fund、GHIT Fund など、世界の政策を動かす立場にも立たれたご

経験を背景に、総論としての理念枠組だけでなく、具体的な行動計画を策定し確実に実施していくことが、"ひとり" に届くために必要であることを解説してくださいました。

特別講演では、日本赤十字社の事業局副局長兼国際部長である田中康夫氏が、世界各地の紛争や災害の救援に関わってきたご経験から、人道危機下で移動する人々 (People on the Move) の保護と救援について概説してくださいました。国際人道法や日本赤十字社と難民との関わりの歴史を紐解きながら、ベトナム難民、シリアからウクライナまで、紛争による被災者・難民などの現状と課題をご講義くださいました。

教育講演では、最近 RCT が困難な状況で比較を可能とする手法の一つとして、疫学分野で取り上げられることの多い傾向スコア (Propensity Score) について、名古屋大学の江啓発氏からご講義いただきました。マッチングだけでない傾向スコアを用いた分析デザインについて解説していただきました。

シンポジウムは 5 件が行われました。愛知県内の在留外国人支援に携わっている方々から、取り組みの実際や多文化社会の現実と課題が報告された「"ひとり"を取り残さない…ここで暮らしたいと思える地域へ」、国際保健領域の多職種間の協働について検討した「グローバル・ヘルスにおける多職種連携」、大学院留学生のストレスと研究支援について考えた「大学院留学生のメンタルヘルスと学修支援」、低所得国でもデジタル革命が急速に普及している現状から、情報

リテラシーやデータリテラシーについて討議した「グローバル・ヘルスとデータサイエンス」、コロナ禍でもできるこれからの国際協力のツールとしてのオンラインを用いた協力活動の工夫やコツを取り上げた「オンライン・リモート時代の国際協働」と、いずれも身近にいる“ひとり”や、これからの“ひとり”へのアプローチについて考えさせられる内容でした。

また、ランチョンセミナーとして「“ひとり”をつなぐセルフケアから、みんなのウェルビーイングへ!」と題して、WHOのセルフケア介入に関するガイドラインについて解説していただいたり、WHO神戸センターとの共催セミナーとしてWKCフォーラム「急速な高齢化に対する医療システムの対応：東南アジアと我が国の教訓」を実施いたしました。

演題は、口演、ポスターを含めて87題のご発表をいただき、特に会場とオンラインを結んだ口演では、活発な討議がなされていました。当日の参加者は、会場、オンライン合わせて340名を超え、会場にも150名以上の方が来場してくださいました。公開講座へのアクセスを含めると400名を超える方々がご参加いただいたのではないかと思います。ハイブリッド開催は特に音響の調整が難しく、ご迷惑をおかけしたところも多々ございましたが、皆様のご理解、ご協力を得て、何とか無事に終了することができました。

本学会の大会としては3年ぶりの会場開催であり、口演後に発表者や座長が集まって交流したり、写真を撮ったりしている様子がみられ、改めてオンラインでは得られない対面開催の価値を感じさせられました。

協賛・共催いただきました日本セルフケア推進協議会、Bridges in Public Health、アジア保健研修所、青年海外協力協会、日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）、国立国際医療研究センター国際医療協力局、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科、同プラネタリーヘルス学環、

WHO神戸センターのみなさま、助成を賜りました大幸財団様、またご協力をいただきました愛知県立大学様に、心から御礼を申し上げます。会場で、あるいはオンラインで、ご参加いただきました皆様、本当にどうもありがとうございました。また、本学会開催にあたり、多大なご協力を賜りました、企画委員、実行委員、運営委員のみなさま、ボランティアの皆様にご心より感謝を申し上げ、学術大会の報告とさせていただきます。



▲国井修先生の基調講演



▲大会長講演

COVAX ファシリティ等を通じた新型コロナワクチン支援—太平洋島嶼国を事例として—

Wakabayashi Mami

若林 真美

国立国際医療研究センター

国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター

上級研究員



日本国際保健医療学会奨励賞を頂き、誠にありがとうございます。

受賞論文は、2020 年 10 月から 1 年間、国立国際医療研究センターから外務省の国際保健政策室（当時）へ派遣していただいた際の実務経験をもとに着想したものです。外務省での担当業務が「COVAX」です。COVAX は 2020 年 4 月に立ち上げられた国際的な新型コロナ対策枠組みの 4 つの柱の 1 つで、新型コロナワクチンの公平なワクチン分配を目指して設立されました。日本は COVAX 設立当初からその仕組みづくりに関して重要な役割を担っています。論文の執筆時は、日本において COVAX 自体があまり認知されておらず、世界における新型コロナのワクチン格差をもっと身近な問題として広く知ってほしいとの思いでした。第 37 回日本国際保健医療学会学術大会での学生部会企画が「新型コロナワクチンから考える格差」というテーマであり、世界における医療資源の問題や健康格差について学生たちが活発に議論している姿を拝見し、改めて重要なテーマであると感じました。

本受賞論文では、COVAX のワクチン分配 / 供給の仕組みを説明するとともに、(1)COVAX を通じた供給とワクチン寄付、二国間ワクチン供与をめぐる課題、(2) 太平洋島嶼国を事例としたワクチン供給、(3) 太平洋島嶼国の脆弱性に焦点を当て、ドナー国からのワクチン支援のあり方に関して論じています。

太平洋島嶼国に注目した理由は、3 点あります。太平洋諸島国は、(1) 国土の拡散性・狭隘性・離散性および国際市場からの遠隔性という共通した課題を持つ国々で、(2) 14 か国中 10 か国が COVAX 支援対象国です。一方、(3) 太平洋島嶼国は二国間支援を受けやすい国でもあります。社会・経済・政治などの背景を、外務省での業務や大学院時代の太平洋島嶼国の 1 つであるパラオでのフィールドワークから実感するこ

とができ、それらの 1 つ 1 つの点としての経験が「ワクチン格差」というテーマで線として、繋がりました。

ワクチン供給量とワクチン接種とのデータ分析から、太平洋島嶼国では、14 か国中半数の 7 か国が新型コロナワクチンの必要十分な供給を受け、ワクチン接種率が 2022 年 1 月時点で 90% 以上を超えていました。一方、十分なワクチン供給量があるにもかかわらずワクチン接種率が 10% 未満の国家も存在することがわかりました。同じような地理的・社会経済的課題をもつ地域内においてワクチン接種率に格差が生じる理由および、その社会的な背景を基礎的な保健医療サービスへのアクセス指標や人間開発指数といった公的データを活用しながら、本稿では考察しました。

私は、地球規模での健康課題に対して、低所得国、高所得国の様々な側面からとらえた取組に関する実践研究に興味があります。COVAX は時限付きの国際的な枠組みですが、次のパンデミックに備えるための枠組みなども現在議論されています。今後は、COVAX という事例をもとに、医薬品のアクセス問題等、国際保健外交に関する研究にも取り組んでいければと思います。



▲外務省にて（筆者左）

日本国際保健医療学会 第41回西日本地方会

フィールドからの問いかけ
—理念と実態のすれ違い—

2023年3月4日

長崎大学医学部 坂本キャンパス

(現地開催予定、オンラインは状況により検討)

会長 神谷 保彦

(長崎大学 熱帯医学・グローバルヘルス研究科)

Tropical Medicine and Health 英文誌認定のお知らせ

日本国際保健医療学会は、日本熱帯医学会の学会誌 Tropical Medicine and Health 誌（出版社 Nature Springer）を、英文学会誌として認定し、両学会で同誌の編集を行うこととなりました。学会員の積極的な投稿をお願いします。

投稿形式の詳細につきましては、下記の URL もしくは QR コードよりご確認のほどお願いいたします。

学会員割引を受けるためには、投稿の際に「account number」が必要となります。

account number は、学会メーリングリストにてお知らせしております。

ご不明の場合は学会事務局までお問い合わせください。また、低所得国の責任著者の論文掲載料は全額免除あるいは 50% 割引となります。投稿時に申請してください。



Welcome to Tropical Medicine and Health



Tropical Medicine and Health

<https://tropmedhealth.biomedcentral.com/>



今月のパズル

楽しく学ぼう国際保健

【国際保健謎解き】

ヒントを元に、問題の譜面が表す単語を考えよう！あなたは正解に辿り着ける？答えはひらがな 4 文字！

ヒント



..... カフェ



..... かばん



..... 顔



..... ベッド

問題



.....

ね			
---	--	--	--

右の QR コードまたは <https://forms.gle/sp4GUSRDRMHT9kTk6> より解答をご応募下さい。

応募者のうち正解された方は、次号でお名前（匿名可）等を掲載いたします！



ご応募用 QR

解答期限：2023 年 2 月 28 日

前月号正解者

- ・・・ 前月号の答え ・・・ HEALTH
- ・・・ 正解者 ・・・ M.H（大学学部生）

正解して君の名前をここに載せよう！

皆様のご応募をお待ちしています

編集部からのお知らせ

国際保健医療学会のニュースレターを 一緒に作ってくださる方を募集中

ニュースレターは1月、5月、9月の年3回発行中！約3ヶ月かけて、1つの号を作成しています。ミーティングは全てzoom・slackを使用して行います。時給制のため、フレキシブルに働いて方はもちろん、学部卒業後五年以内の方でしたら、分野を問わず大歓迎！幅広い分野の方々からのご応募をお待ちしています。国際保健分野の最前線でご活躍されている方々とお話することで国際保健への知見・ネットワークを広げるだけでなく、ニュースレター作成に関わる多種多様なバックグラウンドを持つメンバーから日々刺激を受けながらお仕事しませんか。

応募資格

- ・将来国際保健・熱帯医学の分野に従事する志を持っている方
- ・学生や大学院生の方、学部卒業後五年以内の方
- ・年間3回のうち年間1回以上ご参加できる方

編集部一同、あなたのご応募をお待ちしております！ぜひ、国際保健医療学会ニュースレターと一緒に盛り上げていきましょう！



ご応募用 QR



編集担当・編集後記

教えて！『世界の公衆衛生大学院』

座談会中 zoom 不調で、司会が途中退出して大焦りしたのもいい思い出。

谷岡 由珠	長崎大学医学部保健学科看護学専攻 2 年
上杉 優佳	東京大学医学部医学科 5 年
奈倉 里穂	千葉大学医学部医学科 2 年
井戸 萌	東京女子医科大学医学部医学科 2 年
竹田 早希	東京女子医科大学医学部医学科 6 年
山崎 里紗	長崎大学医学部医学科 6 年

Short Essay

日々見慣れた徒歩圏内の生活ですが、企画を通じて、
“今を生きる” 何処かの誰かに思いを馳せました。

尾田 悠	熊本大学医学部医学科 2 年
井戸 萌	東京女子医科大学医学部医学科 2 年

今月のパズル

パッと思いついてすぐできたり、ズーっと考えても思いつかなかったり
…ルってなかなかないですね！

上杉 優佳	東京大学医学部医学科 5 年
-------	----------------

国際保健の働き方 UpToDate

遠い異国で弱い立場にいる人々の為に奮闘される先生の姿が
本当に素敵でかっこいいです。

無相 遊月	横浜市立大学医学部医学科 3 年
大城 健斗	熊本大学医学部医学科 2 年
森田 智子	東京女子医科大学医学部医学科 6 年
山崎 里紗	長崎大学医学部医学科 6 年

Scenery of My Journey

アフリカの風景をどう読者に伝えよう。一字一句に頭をひねらせました。

城戸 初音	熊本大学医学部医学科 6 年
福田 佳那子	山口大学医学部医学科 5 年

デザイン

雑誌デザインも各号アップデート中！目指せインスタ映えする雑誌！

安藤 新人	南生協病院初期研修医 1 年目
上杉 優佳	東京大学医学部医学科 5 年
無相 遊月	横浜市立大学医学部医学科 3 年

2023 年 2 月号編集総括

多忙なはずの 6 年生。ぎりぎりまで一緒に走り抜けたその姿は、とにかく偉大でした。

福田 佳那子	山口大学医学部医学科 5 年
--------	----------------

グローバルヘルスの海へ

多様性を包摂する豊かさを求めて

グローバルヘルス 合同大会2023

第64回
日本熱帯医学会大会

第38回
日本国際保健医療学会学術大会

第27回
日本渡航医学会学術集会

第8回
国際臨床医学会学術集会

2023年 11/24(金) ▶ 11/26(日)

会場：東京大学本郷キャンパス 安田講堂他 ※一部オンライン開催

<https://pco-prime.com/gh2023/>



嘉糠洋陸

第64回日本熱帯医学会大会 大会長
東京医科歯科大学熱帯医学講座 教授



林 玲子

第38回日本国際保健医療学会学術大会 大会長
国立社会保険・人口問題研究所 副所長



四柳 宏

第27回日本渡航医学会学術集会 大会長
東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野
附属病院 感染症内科 教授 附属病院 医員



田村純人

第8回国際臨床医学会学術集会 大会長
東京大学医学部附属病院 国際診療部長



飯塚陽子

第8回国際臨床医学会学術集会 副大会長
東京大学医学部附属病院 国際診療センター 医

合同大会運営事務局

株式会社プライムインターナショナル内 東京都品川区東五反田4-7-27 フィンテビル2F ☎ 03-6277-0117 ☎ 03-6277-0118 ✉ gh2023@pco-prime.com

発行元



一般社団法人 日本国際保健医療学会
Japan Association for International Health

日本国際保健医療学会事務局

〒162-8655

東京都新宿区戸山 1-21-1

国立国際医療研究センター国際医療協力局内

E-Mail: jaih-office@umin.ac.jp

HP: <https://jaih.jp/>

各種ご応募はこちらから！

